2018年 新春トーク

手と手をつなぎ 地域・まちづくりへ

新年、おめでとうございます。2018年、そして未来へ…。「新春トーク」と題して、医療と介護そしてまちづくりをめぐる夢・希望を熱く時には厳しく語っていただきました。

友の会とともに地域に寄りそう 職員集団を活かして楽しく

社会医療法人同仁会
副理事長　森岡　徳子

司会　あけましておめでとうございます。同仁会の森岡です。今年もよろしくお願いします。去年をふりかえっていかがでしょうか。

森島　友の会も、ここ10年ぐらいで非常に飛躍的に発展し、取り組みも多彩になっています。今、7ブロックで、25支部あるんです。「友の家」もあちこちにできて、友の会ルームや「たまり場」が17カ所とすごい広がりができてきています。会員の姿が見えるような支部にしようと、支部分割をすすめながら、その拠点をもつことが非常に大きな取り組みになってきていると思います。

地域との結びつきを強めていくのは大変ですが、それなしでは本当に地域に責任を持つこともできません。これからも大事な課題です。

地域包括ケアは、行政が金を減らすためにやっているわけで、（民医連が）それと同じようなことではいけない。総合事業やなにかとみんな市町村に押し付けて非常にやりにくい気がします。民医連らしい取り組みをどう展開していくか、相当勉強もしないといけないと感じています。

司会　とくに総合事業ということでは、介護の時代ということも言えるかと思います。介護の立場でお願いします。

向井　国は、地域包括ケアという名のもと、自助、互助、共助という自分の事は自分で、もし、困ったときは、隣近所の助け合いや保険で何とかしましょう、そしてとことん困ったときだけ、公助、つまり国が助けましょうという、政策を進めています。安上がりの総合事業は、その最たるものです。

民医連は「無差別平等の地域包括ケア」をしていこうと各地で取り組んでいます。みみはらグループでは、ひとり暮らしが困難になったときに安心して暮らせる住まいづくりや地域密着事業、友の会ベースに「ワンコイン助っ人隊」などに取り組んできました。ひまわり会が開設した住宅や看護小規模多機能（看多機）、特に看多機は通い、泊り、訪問で在宅生活を支える。地域包括ケアの中核施設の一つになっていかなければと思っています。

森　新病院は経営的には大変ですが、間違いなく期待されている病院だと思っています。救急車の受入れ数も旧病院は4000台で長年推移していたのが、新病院になって5000台半ばになっています。実際にはそれを上回る搬入要請を救急隊から求められる状況になっています。急性期の、とくに高齢者に何かあったときにしっかり受けられる機能を、分け隔てなくやっていくというところを軸に据えてやっていきたいのが一つです。

もう一つは、去年の4月にがん診療拠点病院として大阪府の認定をとりました。国民の大多数ががんになる時代で、地域の方々ががんになっても安心して診てもらえる、あるいは予防や検診を含めて役割を担えたことは、いいことだと思います。儲けのためではなく、意味のある拠点病院としてやっていかないと、と思います。

また、新病院になってからは、近隣の7つの自治会連合会の会長さんとシンポジウムや懇談を通じて顔の見えるつながり、地域とのつながりが広がりはじめています。地域医療支援病院になって、開業医や介護施設とのつながりが強められる一つのきっかけになりました。知恵を絞って地域の要求に応えて役割を発揮できるようにしていきたいと思っています。

知恵を絞って地域の要求に応え役割を発揮したいです

社会医療法人同仁会耳原総合病院
事務長　森　　高志

司会　大矢先生もERや総合診療科などご苦労されていると思いますけど。

大矢　部長職と副センター長、医師研修委員長、地域づくりとまちづくり、HPH委員会の委員長とあれこれやらせていただいています。

今、14年目です。考えていることは、病院として次のわたしたちの世代にどうつなぐか5年後、10年後、自分たちが中心になったときにどうするかです。同世代の仲間たちと力を蓄えつつ、わたしたちも次の世代を育てて、また仲間を増やしていくということをやっていくことが一番中心だと思います。

地域づくりの拠点である病院の姿と、地域支援病院であり、急性期病院であるという姿と、民医連の病院であるという、色んな顔がある病院で、難しい立ち位置だと思います。急性期病院は〝民医連らしさ〟を実感しにくいんです。そんな中気持ちのある若手が辞めないような職場づくり、医局づくりを頑張らないといけないと思っています。ベテラン、中堅の実績のある先生が民医連外から来てくれるということが続いているので、そういう方々に自分たちのことをどう伝えるのかが今後の大きな課題です。

地域の方や行政などとも連携をしつつ、支え合って一緒に地域づくりをする展望が少しずつ見えてきています。そこに友の会の力も借りて、それを大事に育てていきたいと思っています。

司会　少し先のこともお話していただきましたが、今年は「ここはちょっと力を入れてやってみよう」と思っておられることとか、

先ほど、森島会長から「病院にかからないで、健康で住み続けられるまちづくり」と言われましたが、みんなでしっかり健診を受けて、病院や診療所もご利用いただく。研修医の先生が、友の会の人の大腸がんの健診の受診率や、友の会で活動することが健康づくりにつながるということをデータで発表されていました。

5年後、10年後、次の世代にどうつないでいくかですね

社会医療法人同仁会耳原総合病院
総合診療センター救急総合診療科
部長　大矢　　亮

大矢　地域住民の方が一緒に病院づくりに参加している仕組みは世界的にもめずらしいのです。例えば、韓国でも同じようなものをつくろうと医療者の集団が、民医連の見学に来られました。職員も病院ばっかりにいるとやり甲斐やモチベーション等が維持しにくくなることはあります。自分がみている患者さんの生活とつながりをもつことで、患者さんの見えないところが見え、それが地域につながる。また、そういうことを通じて、地域の健康づくりにつながっていることが実感できるとやりがいもてると思います。ただ友の会の方からすれば、われわれの方がなかなか時間がなく、そういう場がもてないので申し訳ないと思っています。

森島　「友の会の活動の中に職員が出て来てくれない」という意見が結構あります。（会員と職員の）相互理解がなかったら、地域に責任を持つというか、地域に根差した活動というのはなかなか定着していかないという気がしています。

今、先生が言われたように、病院の中で患者とだけ相対していたのではしんどくなるだけだと思います。友の会もそこだけではない、法人の援助を受けながら色んなことができているわけです。

私は常に「活動は楽しくなかったら続かへんで。楽しく活動するとはどういうことなんか」ということをずっと言いますが、職員と手をつないでやれば、私は絶対楽しいと思います。私らが何人かたまって行っても、インターフォンで「なんですか?」と言われるだけなのに、職員さん1人いてたら「ああ、どうも」とパッと開けてくれる。この差は大きい。

司会　友の会の組織があるというのは本当に強みだと思うんですよね。そこを楽しく生かすことができたら、何倍も強みになりますよね。

森島　健康友の会みみはらほど大きい組織ってないよね。友の会の組織の力に依拠できるものを早くつくっていかないといけない。

地域との結びつきなしでは地域に責任を持つことはできません

健康友の会みみはら
会長　森島　嘉之

向井　蔵前の事業を立ち上げるにあたって、友の会の皆さんには本当にお世話になりました。どこにどんな人が住んでいて、ここには顔を出しておいた方がいいとか。地元の方が一緒に動いてくださることですごくやりやすかったです。開設してからも、月に一回、映画会をしていただいています。それを入居者や通いの利用者の方と一緒に楽しんでいます。

また「認知症カフェ」というのが堺では「ぬくもりカフェ」ということで何カ所か行われています。鳳クリニックのスタッフを中心にひまわりの鳳でやっています。月1回ですが、コンスタントに10人前後の方がご家族と来られて、ボランティアの方も含めると20人位集まっています。池田先生も三宅先生も来て下さって、当事者同士、家族同士が交流する場になっています。蔵前でもやっていきたいと思います。

大矢　友の会のためにということと、友の会と一緒に、というところがいるのだろうと思うのですね。

堺もそうですが、都市部では専門医療を求める傾向も強いし、医療への要求が高いと思います。それが医療者にとっては疲労となり、患者さん、家族にとっても決していいことでない側面があります。地道な活動ですが、自分がどう生きたいか、死に向いどう生きたいかという話を医療者と一緒にできることが、友の会に入るメリットとして提供できることかと思います。

「ユマニチュード」という認知症の方法があります。認知症の方に対して人間的に接することで、その方の不安を少しでも和らげて、人間的なところを引き出して、その結果、介護者の負担も軽くなるという手法で、日本でも広まってきています。院内で看護とリハを中心に広がってきています。認知症に強い医療機関のニーズはますます高まってますし、同仁会にはその素地はあると思うので、一緒にやりたいと思います。

向井　去年、耳原で開かれた「ユマニチュード」の勉強会にひまわりからも参加しました。グループ全体で職員育成にとりくめたらいいと思います。

住んでよかったと思ってもらえるようにがんばります

社会医療法人同仁会
社会福祉法人ひまわり会
理事　向井あきら

森島　高齢者が何に一番おびえているかと言えば、認知症です。認知症にかかったらどうなるのかという、認知症を予防する方法をどこかで教えてくれるような講座がないかという要望がものすごく強いです。

向井　認知症カフェは、認知症の相談や交流だけではなく、予防のための体操などもやっています。認知症カフェに対して堺市から補助はありません。堺市は「ぬくもりカフェ」という旗をくれるだけで、それを入り口に立てて、開店していることを知らせていますが、宣伝してたくさんの方に来ていただくようにしたいですね。

森　昨年11月に民医連の病院集会があって、千葉大学の近藤克則先生の講演を聞きました。かなりの年数のデータを蓄積されていました。地域で友の会のような人が集まる活動をやっている人とやってない人では5年、10年経ったときの要介護度のすすみ方に明らかに違いがあり、（活動をしている人は）健康寿命が長いというお話を、様々なデータを示してされました。近藤先生からは「民医連はそういうことをずっととりくんでいたでしょうが、データ化しきれてなくて、そこのところをやれば社会的に訴えるものがある」と言われました。特に興味深かったのは、1日1回笑っているかどうかというデータでしたが、たまり場などでは笑いがあります。また人が集まれば役割が発生して、その役割がその人の生きる張り合いにつながります。精神面だけではなく、健康面も含めていい役割をはたすでしょうね。

司会　最後に何かありますか。

大矢　SDHと言われる健康の社会的決定要因ということで、遺伝とか病気の根源には、社会的要因も大きいということを証明され、世界でも認識されています。格差が広がるなかで日本でも注目され、大学でもとりくまれています。

また、わたしも所属しているプライマリ・ケア連合学会では、民医連がやってきていることも注目されています。若い人に民医連を言葉で伝えにくいところもありますので、SDHとかHPHとか世界的にも認知され、一定科学的な実証があるようなものも新たな旗印に加えて、民医連以外のところと共同もしながら、負けない体力もつけていきたい。そういう点では共同組織をもっていることは強みです。

森　最初に森島会長が地域包括ケアを言われましたが、地域包括ケアの主人公は住んでいる人たちで、その人たちとかかわるという関係を意識的につくらないと、地域包括ケアとは言えないと、森島会長の話と今の大矢先生のお話からそう感じました。

向井　今年は利用者の方の暮らしが豊かになるようなとりくみをして、ここに住んでよかったと思ってもらえるようにがんばります。

司会　あらためて思うのは、友の会をもち、そこを大事にする同仁会グループの職員集団がいて、それを活かして「一緒にがんばろう!」となればいいですね。ありがとうございました。

総合病院エリア　第16回
地域健康まつり（2017年10月29日開催）
抽選会　当選番号

引換期間：11月27日（月）～2018年１月31日（水）
引換場所：総合病院　総務課

※赤色の取り消し線のある番号は、引替え済みです。（2017年12月16日現在）

特別賞	1本	コーヒーメーカー	3665									
1等	1本	ギフト券3万円	~~1811~~									
2等	5本	ギフト券5千円	503	~~734~~	~~862~~	1556	~~4117~~					
3等	30本	お米（2kg）	~~139~~	~~193~~	~~252~~	580	640	695	~~745~~	~~775~~	~~819~~	~~929~~
			~~953~~	~~963~~	~~976~~	1235	~~1241~~	1524	1539	~~1927~~	~~2076~~	2149
			~~2850~~	~~3404~~	3456	3628	3676	3806	~~4119~~	4151	4268	4353
4等 下2桁	100本	食器洗い洗剤	08	09	42	52	56	62	65	84	95	98